

平成 30 年度版

かながわの学びの充実・改善のために

平成 30 年度全国学力・学習状況調査
神奈川県公立小・中学校調査結果の分析・活用資料



児童・生徒の皆さんへ

県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を受けて、小・中学生の「文章を書くチカラ」をもっと伸ばしたいと考えています。

児童・生徒の皆さんへの提案です。一日一行、文章を書く習慣を身に付けましょう。県教育委員会では、[365一行日記]のフォーマットをホームページに掲載しています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f531252/>

教職員の皆さんへ

あらゆる場面で、一人ひとりのよい点や可能性に目を向け積極的に伝えるなど、児童・生徒の自己肯定感をはぐくむ取組を進めていきましょう。

各学校で行っている授業改善の取組が、確実に児童・生徒の「授業に対する意欲的な姿勢」や「伝えたいことを適切に話す力」につながっていることが、全国学力・学習状況調査の結果から明らかになっています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f531252/>

平成 30 年 10 月
神奈川県教育委員会

本資料作成の趣旨

県教育委員会では、県内公立小・中学校の児童・生徒の学力*1向上のため、市町村教育委員会及び学校と連携・協力し、「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業*2」を実施するなど、各学校における指導方法の工夫・改善、研修・研究を推進してきました。

- *1 学力…学校教育法第30条において次のように示されています。
「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」
- *2 かながわ学びづくり推進地域研究委託事業…平成20年度に中井町教育委員会から研究委託がスタートし、以降平成27年度までに政令・中核市を除く29市町村教育委員会で取り組む。現在も継続実施中。

各教育委員会や各学校が、学力向上の取組の成果や課題を把握し、更なる充実・改善を図るために、毎年度実施される全国学力・学習状況調査の結果を分析・活用することは重要です。

一昨年度、県教育委員会では、平成28年度全国学力・学習状況調査の「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」「教科に関する調査」の結果を総合的に分析し、「かながわの強みと課題」として整理するとともに、昨年度には、各学校がこの強みを生かし課題を改善するために重要と考える取組等を「学びの充実・改善ポイント」としてまとめ、新たに示しました。

そして、今回、平成30年度全国学力・学習状況調査の本県公立小・中学校の調査結果から、「かながわの強みと課題」の今年度の状況を確認するとともに、「学びの充実・改善ポイント」を改めて示すこととしました。

市町村教育委員会及び学校では、本資料を参考に、それぞれの地域・学校における強みと課題を踏まえた、学びの充実・改善に向けた取組の推進をお願いします。

本資料の構成

I	平成30年度全国学力・学習状況調査の概要	・・・	3
II	本調査結果資料の活用にあたって	・・・	3
III	かながわの強みと課題	・・・	4
IV	学びの充実・改善ポイント 【新規】ポイント④	・・・	9
V	平成30年度全国学力・学習状況調査 神奈川県公立小・中学校調査結果（詳細）	・・・	20
VI	学びの充実・改善に向けて参考となる情報 神奈川県教育委員会の主な取組等	・・・	30

I 平成30年度全国学力・学習状況調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

出典：平成30年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（文部科学省）

2 調査方式 悉皆調査

【参考】H19～H21：悉皆、H22～H24：抽出（H23：震災で中止）、H25～：悉皆

3 調査期日 平成30年4月17日（火）

4 集計学校数、児童・生徒数（対象者：小学校第6学年児童、中学校第3学年生徒）

参加校数 小学校調査 863校（小学校853校、特別支援学校 小学部8校、義務教育学校(前期)2校）
中学校調査 420校（中学校408校、特別支援学校 中学部8校、中等教育学校(前期)2校、義務教育学校(後期)2校）

参加人数 小学校調査 約7万3千人、中学校調査 約6万4千人

【参考】県域（政令指定都市（横浜市、川崎市、相模原市）を除いた地域）

参加校数 小学校調査 332校（小学校328校、特別支援学校 小学部4校）
中学校調査 180校（中学校174校、特別支援学校 中学部4校、中等教育学校(前期)2校）

参加人数 小学校調査 約2万6千人、中学校調査 約2万5千人

5 調査事項

(1) 児童・生徒に対する調査：国語(A, B)、算数・数学(A, B)、理科、質問紙調査

(2) 学校に対する質問紙調査

【参考】A：主として「知識」に関する問題 B：主として「活用」に関する問題

6 留意事項

本調査結果は、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、また、学校における教育活動の一側面である。

出典：平成30年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（文部科学省）

II 本調査結果資料の活用にあたって

各市町村教育委員会や各学校では、次のような事項に留意して本調査結果の活用や取組の推進を図る必要があります。

- ◆ 本調査結果で示す数値等は、県全体の状況や傾向を示すものであることから、「学びの充実・改善ポイント」を参考にして
 - ・ 市町村教育委員会では、各市町村の状況や傾向、所管する学校ごとの様々な状況や傾向等を把握し、個に応じた取組や指導助言の充実・改善を図ること。
 - ・ 学校では、自校の状況や傾向、児童・生徒個々の学習状況等を把握し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実・改善を図ること。
- ◆ 学校では、本調査の分析・検証の結果を学校全体で共有し、調査実施以外の学年や実施教科以外の教科等の指導改善等にも活用すること。
- ◆ 学校では、本調査の分析・検証の結果を保護者や地域の方とも共有し、連携を取りながら、家庭・地域における学習習慣や生活習慣の充実・改善を図ること。

Ⅲ かながわの強みと課題

- ・〔設問の開始年度、平成 28 年度、平成 29 年度、平成 30 年度〕の 4 力年を抽出してその数値を示しました。
- ・「児童生徒質問紙」「学校質問紙」の各数値は、それぞれの設問に肯定的な回答をした人数及び学校数の割合を%で表しています。〈以降 同様〉

平成 28 年度全国学力・学習状況調査の本県公立小・中学校の調査結果からまとめた「かながわの強みと課題」について、今年度の状況を確認しました。

強み 1

授業での活発な言語活動（話し合い活動等）により、児童・生徒の「伝えたいことを適切に話す力」が養われています！

平成 30 年度は、特に、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると実感している児童・生徒の割合が、伸びています。この背景には、教員が学校全体で、言語活動を重視した授業改善を進めてきたことがあると考えます。また、こうした取組が、国語 A「話すこと・聞くこと」での平均正答率が、全国の平均を上回っているという結果に関連していると考えられます。

関連データ

<「教科に関する調査」より>

○国語 A「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率

【小】	県	H19 : 56.6%[± 0]	→H28 : 79.9%[+0.7]	→H29 : 70.9%[+1.7]	→H30 : 91.0%[+0.2]
	国	56.6%	79.2%	69.2%	90.8%
【中】	県	H19 : 90.0%[-0.1]	→H28 : 79.5%[+0.6]	→H29 : 76.4%[+1.0]	→H30 : 76.1%[+0.9]
	国	90.1%	78.9%	75.4%	75.2%

* []は国との比較

<「児童生徒質問紙」より>

○学級の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。（57, 54）

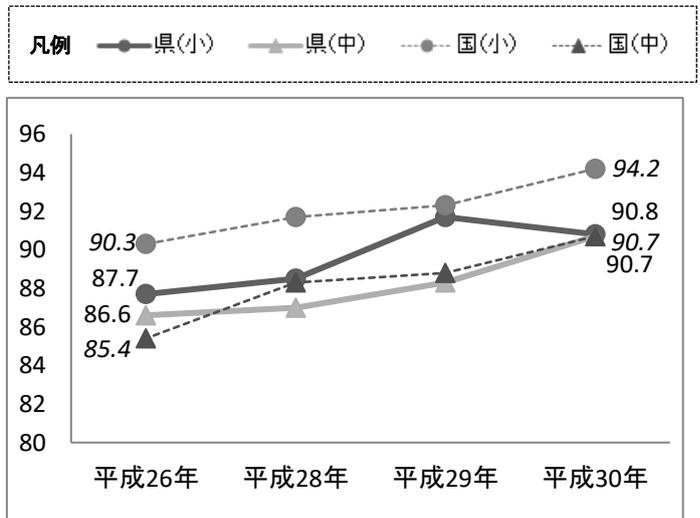
【小】	県	H26 : 65.4%	→H28 : 67.1%	→H29 : 67.4%	→H30 : 76.6%
	国	65.9%	68.3%	68.2%	77.7%
【中】	県	H26 : 60.6%	→H28 : 62.9%	→H29 : 63.0%	→H30 : 73.2%
	国	61.9%	64.8%	64.8%	76.3%

参考

<「学校質問紙」より>

○言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか（81, 78）

小・中学校ともに、言語活動に学校全体として取り組んでいる学校の割合が経年で見ると増加傾向にあり 9 割を超えています。



強み2

児童・生徒の国語、算数・数学、理科の授業に対する意欲的な姿勢が見られます！

これまでの調査結果で向上が見られてきた児童・生徒の授業に対する意欲的な姿勢等について、平成30年度調査は前年度と同程度の結果でした。児童・生徒の授業に向かう姿勢、学習意欲は、知識・技能や思考力・判断力・表現力等とともに、確かな学力を形成する大切な力であることから、さらに向上を図ることが必要です。

関連データ

<「児童生徒質問紙」より>

○国語の勉強は好きですか。(H30は調査項目なし)

【小】	県	H19 : 61.0%	→H28 : 60.2%	→H29 : 62.7%
	国	59.6%	58.3%	60.5%
【中】	県	H19 : 62.2%	→H28 : 61.6%	→H29 : 62.3%
	国	56.8%	59.8%	60.5%

○算数(数学)の勉強は好きですか。(27, 27)

【小】	県	H19 : 64.8%	→H28 : 66.2%	→H29 : 66.1%	→H30 : 64.3%
	国	65.0%	66.0%	65.9%	64.0%
【中】	県	H19 : 52.9%	→H28 : 57.7%	→H29 : 57.9%	→H30 : 56.9%
	国	51.0%	56.0%	55.4%	53.9%

○理科の勉強は好きですか。(38, 38)

【小】	県	H27 : 82.9%	→H30 : 82.2%
	国	83.5%	83.5%
【中】	県	H27 : 58.0%	→H30 : 61.3%
	国	61.9%	62.9%

<「学校質問紙」より>

○児童・生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか。(H30は調査項目なし)

【小】	県	H19 : 88.8%	→H28 : 93.4%	→H29 : 93.7%
	国	90.6%	93.4%	94.2%
【中】	県	H19 : 86.6%	→H28 : 94.0%	→H29 : 95.3%
	国	84.0%	91.4%	91.7%

○児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。(12, 12)

【小】	県	H19 : 86.6%	→H28 : 91.1%	→H29 : 89.8%	→H30 : 89.0%
	国	89.8%	90.5%	90.7%	89.4%
【中】	県	H19 : 89.3%	→H28 : 96.2%	→H29 : 95.0%	→H30 : 96.5%
	国	90.4%	94.5%	94.6%	94.6%

外部講師を積極的に活用した校内研修が行われています。また、小中連携しての授業研究が活発になっています！

平成30年度調査結果からは、これまでと同様に、各学校が外部講師を積極的に活用するなど、学校全体で授業研究の活性化が図られていることが見てとれます。外部からの視点を入れることは、多様な視点からの授業改善につながります。

また、学校間の小中合同研修や教職員同士の交流等の活性化も図られています。

関連データ

<「学校質問紙」より>

○学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。(73, 70)

【小】県 H19 : 96.4% →H28 : 97.5% →H29 : 97.2% →H30 : 97.9%
国 91.0% 93.0% 93.6% 94.0%

【中】県 H19 : 87.2% →H28 : 93.0% →H29 : 91.9% →H30 : 91.0%
国 83.1% 86.0% 88.4% 88.5%

○近隣の中(小)学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。(77, 74)

【小】県 H28 : 74.2% →H29 : 75.7% →H30 : 78.8%
国 62.5% 65.6% 69.5%

【中】県 H28 : 77.3% →H29 : 81.6% →H30 : 82.4%
国 72.5% 74.8% 76.5%

参 考

カリキュラムに関する支援

「カリキュラム・コンサルタント」の活用

県立総合教育センターでは、学校や教職員、教育関係機関からの要請に応じて、カリキュラムに関する指導・助言などの教育的支援を行っています。学校経営、学習指導、児童・生徒指導に関することなどのご相談に応じています。

校内研究や講演会等の講師や指導主事の派遣等に学校の実情に応じた支援にご利用ください。

◇カリキュラム・コンサルタント テーマ例

○学校経営に関すること

- ・インクルーシブな学校づくり
- ・教職員の不祥事防止
- ・校内の人材育成

○学習指導に関すること

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- ・授業のユニバーサルデザイン
- ・指導と評価の一体化

○児童・生徒指導に関すること

- ・発達障害の理解
- ・不登校児童・生徒への対応
- ・いじめの未然防止



(神奈川県立総合教育センター ホームページより)

<https://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/Snavi/shoinSnavi/karicon.html>

課題1

学校は、一人ひとりの児童・生徒が学んだことをしっかりと身に付けるために、自ら学ぶ習慣作りを進めることが必要です！

平成30年度の教科の調査問題A（主として知識に関する問題）においても、全国平均正答率よりも5ポイント以上低い設問がありました。しかし、学校質問紙調査からは、学校全体で、家庭学習の与え方や方法等の指導について改善が見られます。

児童・生徒が自らの学習を振り返り、どこができるようになったのか、どこがまだ分からないのかを、自分自身で把握（自己評価）し、分からなかったことをまずは、じっくりと自分で考えることが大切です。

関連データ

<「教科に関する調査」より>

- ・国語A「漢字の読み書き」の平均正答率

【中】 H30 3問中1問が全国を5ポイント以上下回る 例 「幕」を書く
 県 67.0% [-5.9]
 国 72.9%

- ・数学A「絶対値の意味の理解」の平均正答率

【中】 H30 全国を5ポイント以上下回る 例 「絶対値が6である数」を書く
 県 62.5% [-6.5]
 国 69.0%

- ・理科「科学的な言葉や概念の理解」の平均正答率

【小】 H30 全国を5ポイント以上下回る 例 「関節」を書く
 県 72.5% [-6.9]
 国 79.4%

<「児童生徒質問紙」より>

- 家で、学校の授業の復習をしていますか。(12, 12)

【小】 県	H19 : 33.0%	→H28 : 45.7%	→H29 : 44.1%	H30 : 55.2%
国	40.1%	55.2%	53.8%	62.6%
【中】 県	H19 : 35.3%	→H28 : 45.3%	→H29 : 44.2%	H30 : 52.1%
国	39.2%	51.0%	50.5%	55.2%

「予習・復習をしていますか」に変更

- 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。(10, 10)

【小】 県	H20 : 52.2%	→H28 : 59.5%	→H29 : 62.5%	→H30 : 64.3%
国	52.0%	62.2%	64.5%	67.6%
【中】 県	H20 : 35.0%	→H28 : 48.1%	→H29 : 50.4%	→H30 : 48.4%
国	34.3%	48.4%	51.5%	52.1%

<「学校質問紙」より>

- 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。(64, 61)

【小】 県	H26 : 72.7%	→H28 : 77.4%	→H29 : 78.6%	→H30 : 85.4%
国	85.4%	88.8%	89.6%	91.6%
【中】 県	H26 : 58.5%	→H28 : 66.5%	→H29 : 68.9%	→H30 : 71.4%
国	76.9%	82.1%	82.2%	87.1%

- 家庭学習の取組として、児童・生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。(66, 63)

【小】 県	H22 : 75.8%	→H28 : 81.4%	→H29 : 83.5%	→H30 : 85.1%
国	88.3%	91.9%	92.2%	93.3%
【中】 県	H22 : 75.2%	→H28 : 79.9%	→H29 : 78.5%	→H30 : 80.2%
国	84.1%	87.8%	88.3%	90.2%

学校は、全ての児童・生徒が自己肯定感を高め、夢や目標に向かう意欲をさらに高めていくことが必要です！

平成30年度の児童生徒質問紙において、「自分にはよいところがあると思いますか。」や「将来の夢や目標を持っていますか。」等の設問について、多くの項目で肯定的回答の割合が上昇していますが、国の平均を下回る状況が続いています。

社会状況が変化する中、自分らしさを大切に、自立して、たくましく生き抜くためには、自己肯定感を基盤とした生涯にわたる「自分づくり」がますます重要となります。

関連データ

<「児童生徒質問紙」より>

○自分には、よいところがあると思いますか。(1, 1)

【小】	県	H19 : 68.2%	→H28 : 75.5%	→H29 : 77.2%	→H30 : 83.4%
	国	71.5%	76.3%	77.9%	84.0%
【中】	県	H19 : 59.7%	→H28 : 67.6%	→H29 : 68.8%	→H30 : 77.5%
	国	60.5%	69.3%	70.7%	78.8%

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。(6, 6)

【小】	県	H19 : 90.7%	→H28 : 93.1%	→H29 : 91.9%	→H30 : 94.3%
	国	91.9%	93.8%	92.5%	95.2%
【中】	県	H19 : 88.4%	→H28 : 90.9%	→H29 : 90.2%	→H30 : 93.5%
	国	89.6%	92.8%	91.9%	94.9%

○将来の夢や目標を持っていますか。(3, 3)

【小】	県	H19 : 82.4%	→H28 : 83.7%	→H29 : 84.6%	→H30 : 83.7%
	国	83.7%	85.3%	85.9%	85.1%
【中】	県	H19 : 70.4%	→H28 : 68.9%	→H29 : 68.4%	→H30 : 70.4%
	国	70.7%	71.1%	70.5%	72.4%

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。(5, 5)

【小】	県	H19 : 93.3%	→H28 : 95.7%	→H29 : 95.2%	→H30 : 96.1%
	国	94.7%	96.6%	96.1%	96.8%
【中】	県	H19 : 85.2%	→H28 : 91.2%	→H29 : 90.1%	→H30 : 93.3%
	国	87.9%	93.6%	92.8%	95.5%

○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。(2, 2)

【小】	県	H26 : 78.4%	→H28 : 81.1%	→H29 : 84.0%	→H30 : 83.1%
	国	79.7%	82.6%	86.0%	85.3%
【中】	県	H26 : 72.4%	→H28 : 75.7%	→H29 : 77.9%	→H30 : 79.6%
	国	74.1%	78.0%	80.4%	82.2%

IV 学びの充実・改善ポイント

グラフについて

- ・〔設問の開始年度、中間の年度、平成30年度〕の3カ年を抽出
- ・「児童生徒質問紙」「学校質問紙」の数値は各設問に肯定的な回答をした人数及び学校数の割合

凡例

● 県(小) ▲ 県(中) ● 国(小) ▲ 国(中)

ポイント

1

「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学校全体での授業づくりをより充実しましょう。

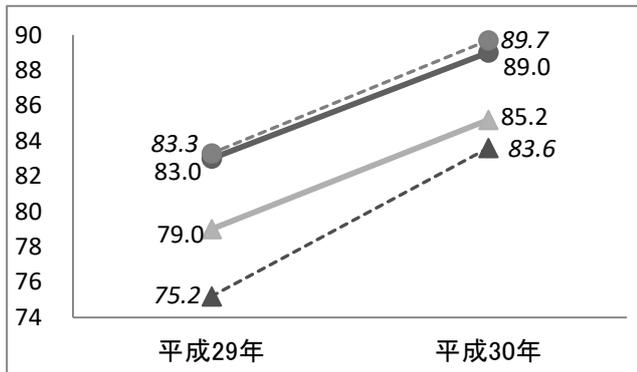
強みを生かす

- 「主体的・対話的な学び」に関して、児童・生徒の授業に対する前向きな姿勢や、授業での活発な言語活動（話し合い活動等）が見られています。さらに、外部講師を積極的に活用した校内研修や、小中連携しての授業研究が活発になっています。
- これらの強みを生かしながら、今後さらに「深い学び」の視点をもって授業改善を行っていくことが重要です。

【参考】「深い学び」に関する調査結果

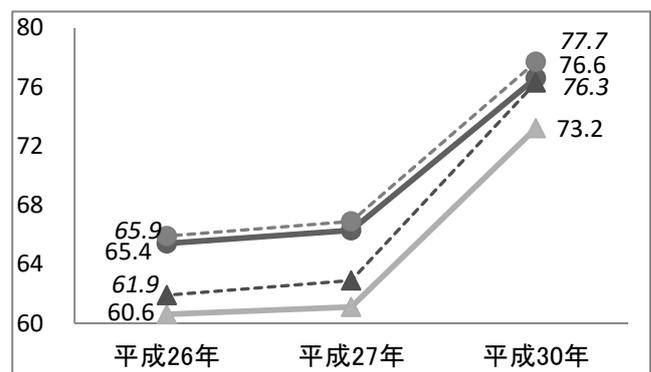
<学校質問紙>

26, 25 前年度に、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか

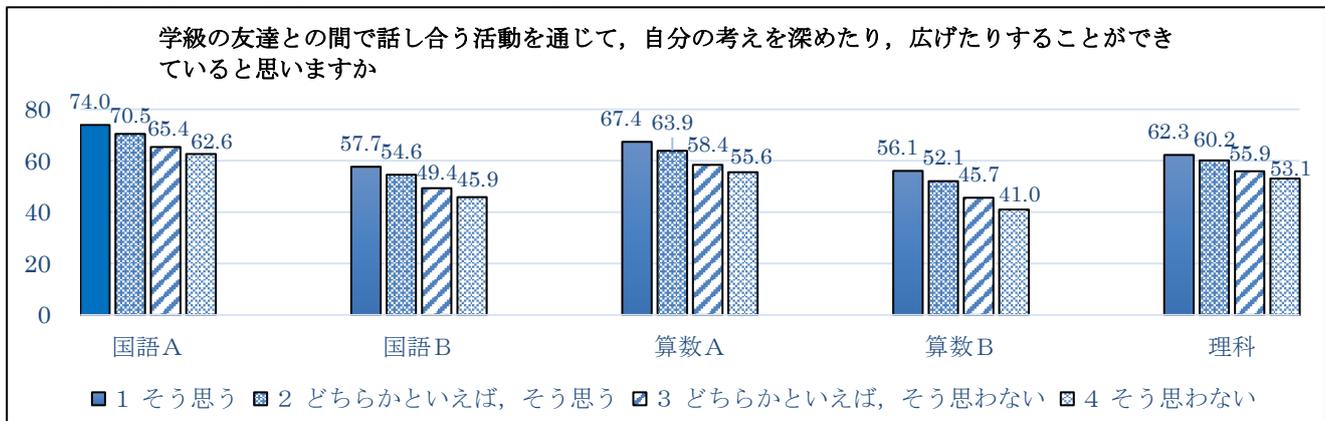


<児童生徒質問紙>

57, 54 学級の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



<児童質問紙（小学校）> ～クロス集計より～



- クロス集計では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に対して、肯定的な回答を示す児童の正答率は高いという結果が出ています。

【参考】「深い学び」の視点とは

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点である。（新学習指導要領解説編 総則より）

【参考】「主体的・対話的で深い学び」とは

「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、特定の指導方法のことも、学校教育における教員の意図性を否定することでもない。人間の生涯にわたって続く「学び」という営みの本質を捉えながら、教員が教えることにしっかりと関わり、子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことである。

（「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」中教審答申より）

学校の取組例

県の強みである、「授業研究」を基盤としながら、教員一人ひとりが主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を図っていくことが重要です。

ミドルリーダーが中心となって、経験年数の短い教職員も含めて、教職員同士が価値を見出し、共有し、面白がって、意欲的に校内研究を進めることが大切です。

<具体的な取組例>

- 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫
- 指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた授業づくり
- 児童・生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導の工夫
- 学級やグループ、ペア等で話し合う時間を意図的・計画的に位置付けた授業づくり
- 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導の工夫
- 各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすような場面の設定
- 教員自らが面白がって意欲的に取り組めるような、校内研究の工夫

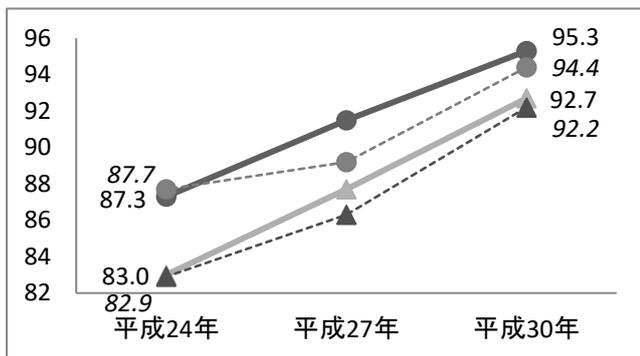
- 教科の調査問題A（主として知識に関する問題）における課題の改善のためには、児童・生徒の個々の学習状況や教育的ニーズに応じたきめの細かい指導・支援が必要です。
- 中でも児童・生徒が自らの学習を振り返り、どこができるようになったのか、どこがまだ分からないのかを自分自身で把握して、分かるまでじっくり取り組んでみるといった、自ら学ぶ習慣作りが進むような指導・支援が重要です。
- 平成30年度の学校質問紙調査結果からは、家庭学習の与え方や方法等の指導状況において改善が見られています。引き続き充実・改善を図りましょう。
- また、特別な配慮を必要とする児童・生徒の教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた適切な指導・支援を行っていくことが重要です。

【参考】個に応じた指導・支援に関する調査結果

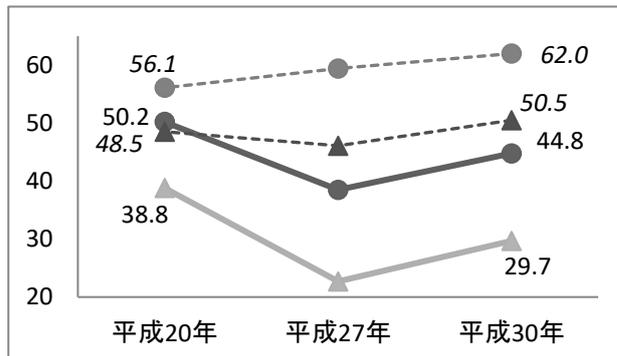
＜学校質問紙＞

凡例 ● 県(小) ▲ 県(中)
○ 国(小) △ 国(中)

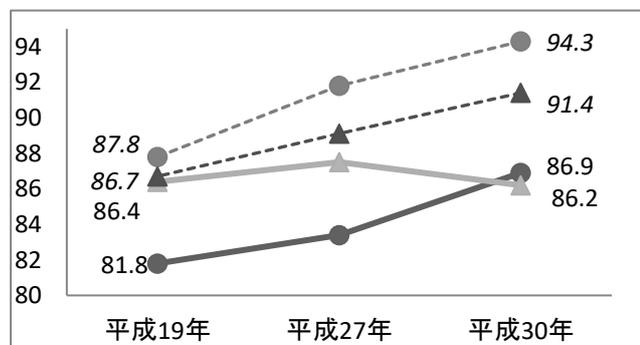
52, 50 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童（生徒）に対する授業の中で、児童（生徒）の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか



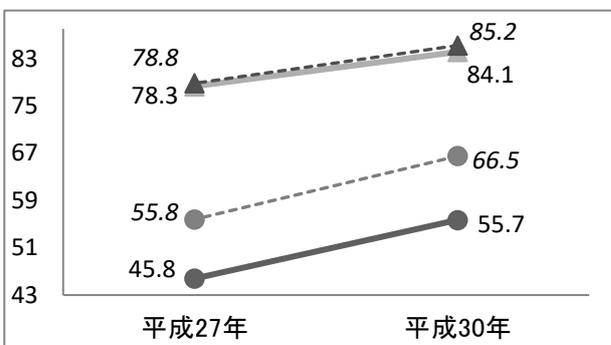
35, 34 算数（数学）の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか



37, 36 算数（数学）の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか



43, 41 理科の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか

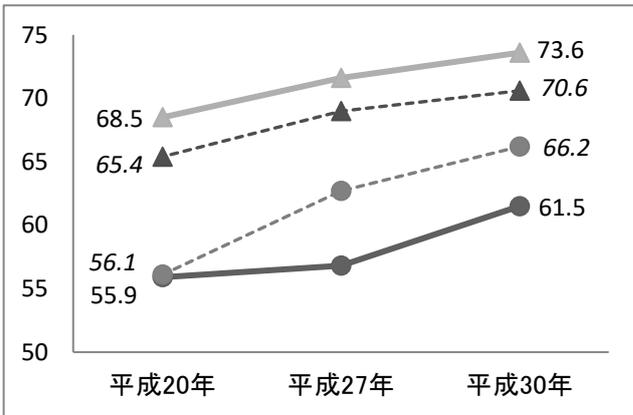
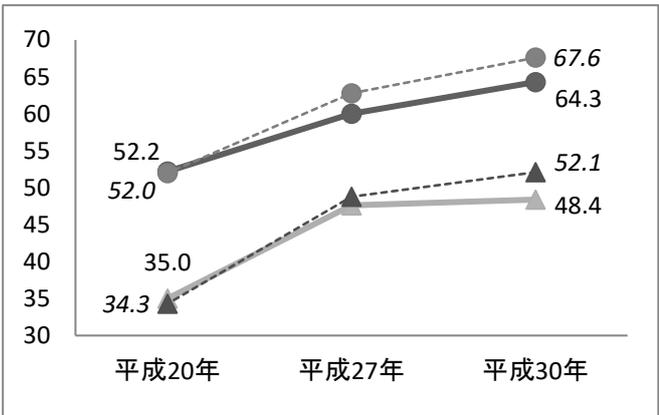


<児童生徒質問紙>

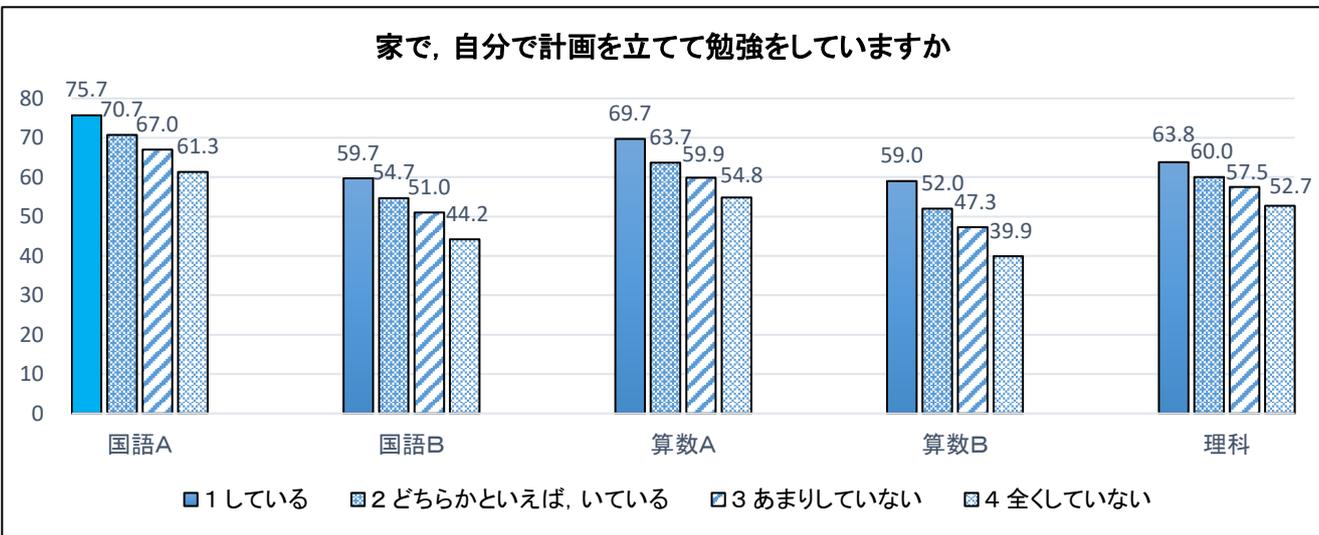
凡例 ● 県(小) ▲ 県(中) ● 国(小) ▲ 国(中)

10, 10 家で、自分で計画を立てて勉強していますか

14, 14 学校の授業以外に、普段、1日当たり1時間以上勉強をします



<児童質問紙（小学校）> ～クロス集計より～



➤ クロス集計では、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に肯定的に回答している児童ほど正答率が高い結果が出ています。算数Bでは「している」と回答した児童と「全くしていない」と回答した児童の差が19.1ポイントもあります。

【参考】個に応じた指導の充実

児童・生徒が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童・生徒や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童・生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補足的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること。
(新学習指導要領解説編 総則より)

【参考】児童・生徒の障害の状態等に応じた指導の工夫

障害のある児童・生徒などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童・生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。
(新学習指導要領解説編 総則より)

学校の取組例

学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりする活動を積み重ねていくことの価値に子ども自身が気づくことが、学びに向かう力を育みます。

子どもたちの資質・能力の育成にあたっては、それぞれの発達や学習の課題などを踏まえ、それぞれの特性に応じた学びを引き出し、一人ひとりの資質・能力を高めていくという視点をもつことが重要です。

<具体的な取組例>

- 学習したことを振り返って次につなげる活動を計画的に取り入れる
- 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解をはかる
- 家庭学習の中に自主的な課題に取り組む自学ノート等の取組を行う
- 児童・生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教える
- 習熟度の状況に応じた指導方法、指導体制等の工夫を図る(少人数、TT等)
- 障がい等に関する知識や配慮等についての正しい理解と認識を深めて授業改善に生かす

📖 自学自習のサイクルづくり

学校では、一人ひとりの児童・生徒が授業以外の場で、自らの学習を進めることができるよう、そのきっかけを与えたり、方法を丁寧に教えたりする等、補充学習や家庭学習を含め、個に応じてきめ細かく導くことが必要です。

一人ひとりの児童・生徒が学んだことをしっかり身に付けるために、

- ① 自分の学習状況（何が分かっている、何が分かっていないのか）を客観的に把握すること
- ② そして苦手克服のための学習の手立て（学習の方法）について知ること
- ③ 次に、先を見通して、自分で計画した自学自習を進めるための手立てを知ること
- ④ 最後に自己評価や教員の評価(励まし等)

により、この自学自習のサイクルは回っていきます。

発達障害のある児童・生徒への支援

発達障害やその傾向のある児童・生徒がいる学級では、学級担任や教科担任は次の二つの視点での対応が求められます。

①「個別支援（個別指導）」に基づく対応

「つまづきやすい」児童・生徒に対して、個に即した助言や支援を行う、取り出し授業や補習授業を行う等

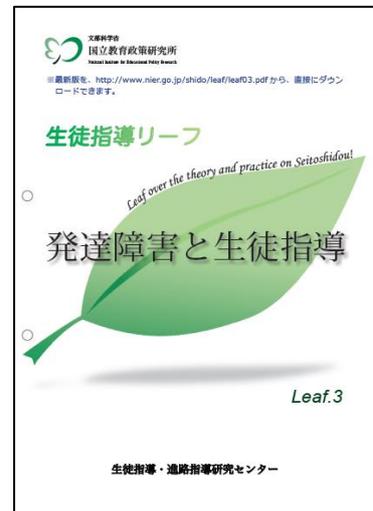
②「集団指導」に基づく対応

「つまづきやすい」児童・生徒だけでなく、全ての児童・生徒が互いの特性等を理解し合い助け合ってともに伸びていこうとする集団づくりを進める、分かりやすい授業づくりを進める等

発達障害の特徴が見られる児童・生徒に対する支援の例

- 発表はよくできるのに、簡単な文章を書くことができない
- 視覚的な手掛かりがあれば取り組めるのに、話を聞いただけでは活動できない
- 落ち着いて考えればできることでも、あわてて取り組んでしまうため不注意な誤りが多い
- 多動や衝動性など、抑えきれない行動が多く見られる
- 急な予定の変更があった場合、うまく対応できない
- 周囲の状況を見て対応することができず、ほかの児童生徒と同じ行動がとれなかったり、指示に従えなかったりすることが多く見られる

- 子供が学びやすい手掛かりを工夫する
- 得意なこと好きなことを把握し、できていることを認める
- 行動面や感情面の自己コントロールの仕方と一緒に考える
- 部分的にでもできていれば、本人の努力を認める
- 予定変更の可能性がある場合には、あらかじめ伝えておくなど先の見通しをもたせる
- 場面や状況ごとに、言葉かけや対処の仕方について具体的に教える



教育のユニバーサルデザインをめざして

文部科学省 国立教育政策研究所
生徒指導リーフ 資料より

個別支援を必要とする子どもだけではなく、学級にいるすべての子どもたちが安心、安全に生活できる環境やより分かりやすい指導方法等、ユニバーサルデザイン化された教育が求められています。

例えば、「文章を読みやすくする」には、区切って読ませたり、定規やしおりをあてることで、文章が読みやすくなったり、体裁を工夫したりする支援が考えられます。

また、「作文を書く」場面で、頭の中で情報を整理することが苦手な場合には、書いてまとめさせたり、資料を活用させたりといった支援が考えられます。

神奈川県立総合教育センター 資料より



■ 児童・生徒の障がいの状態をしっかりと理解して、適切な支援を進めていく必要があります。

ポイント 3

児童・生徒の視点に立った授業づくり、学校づくりを、 家庭・地域とともに進めましょう。

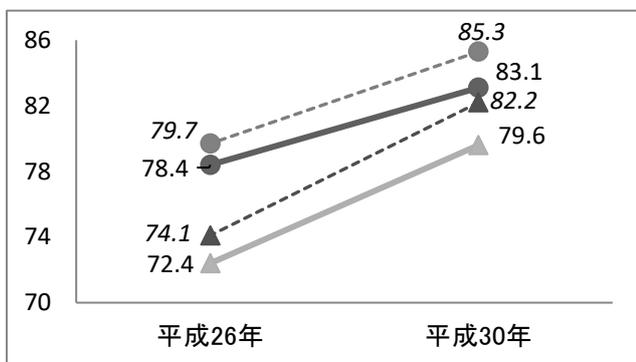
課題の改善

- 課題として挙げた児童・生徒の自己肯定感を高めていくためには、児童・生徒が主体的に関わることができる教育活動を充実させ、教員はその中で、一人ひとりのよい点や可能性を認める視点をもつことが重要です。
- さらに、児童・生徒の自己肯定感の醸成は、学校に加え、家庭でも地域でも全ての大人が意識して取り組んでいく必要があります。

【参考】自己肯定感に関する調査結果

<児童・生徒質問紙>

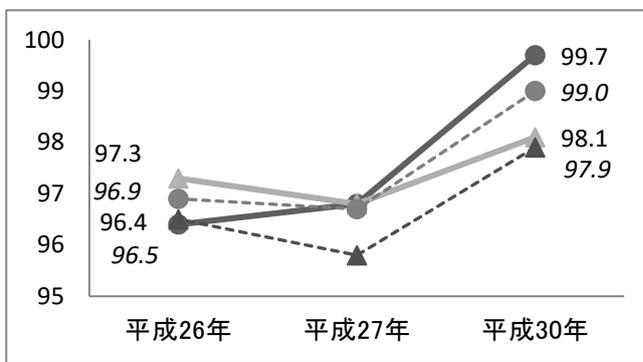
2, 2 先生はあなたのよいところを認めてくれていますか



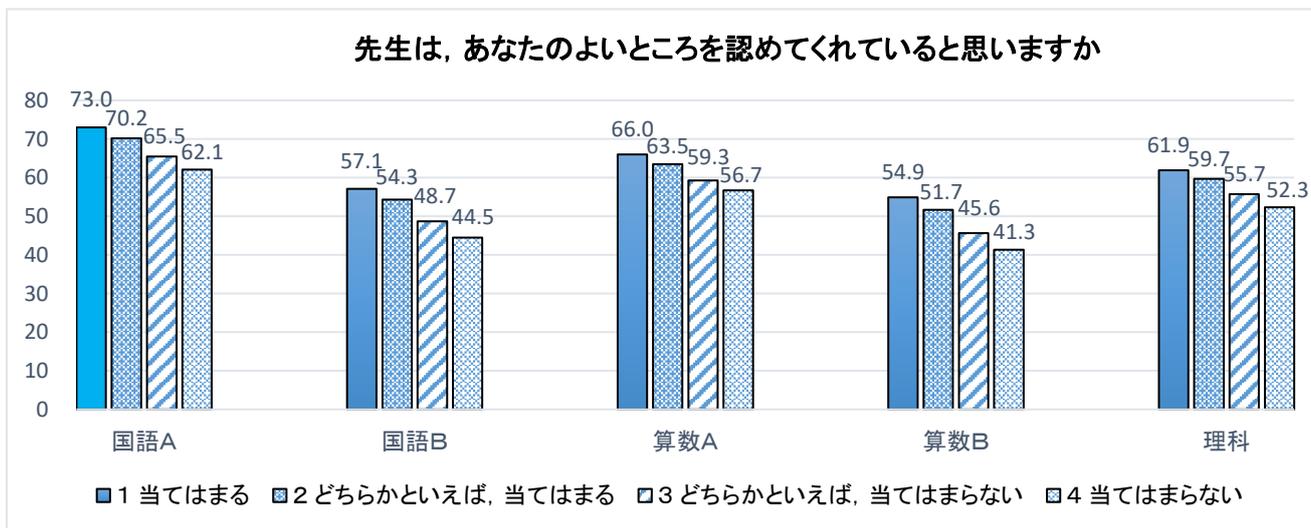
凡例 ● 県(小) ▲ 県(中) ● 国(小) ▲ 国(中)

<学校質問紙>

30, 29 学校生活の中で、児童(生徒)一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童(生徒)に伝えるなど積極的に評価しましたか



<児童質問紙 (小学校)> ~クロス集計より~



- クロス集計においては、「先生はあなたのよいところ認めてくれていますか」に対して、「当てはまる」と回答をしている児童の方が、「当てはまらない」と回答している児童より各教科における平均正答率が高いという結果が出ています。

【参考】子どもの視点に立つということ

(教育課程が、学校と社会や世界との接点となり、さらには、子供たちの成長を通じて現在と未来をつなぐ役割を果たしていくことが実現されるためには) まず学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、育成を目指す資質・能力を整理する必要がある。その上で、整理された資質・能力を育成するために「何を学ぶか」という、必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶか」という、子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要がある。

(「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」中教審答申より)

【参考】自己肯定感を育むことの重要性

夢や希望に向かい、自らを律して困難を乗り越え、未来をたくましく切り拓ひらくことや、自己と社会の未来を創る強い意志をもち、変化をおそれず主体的に行動すること、さらに、自己への自信と人への思いやりをもって、心豊かでしなやかに生きることのできる力を備えることが重要です。 そのためには、まわりの人から「大切にされている」と感じながら、育てられることが必要です。そこから生まれる安心感や信頼感に根ざして、自らをありのままの姿で受容できる自己肯定感をはぐくんでおかなければなりません。

(かながわ教育ビジョンより)

学校の取組例

『子どもの視点に立つ』ということは、今回の学習指導要領改訂の重要なポイントです。まずは目の前の児童・生徒の実態を様々な方法でしっかりと把握し、児童・生徒の目線から授業づくり、授業改善を図っていくことが重要です。そのことが、児童・生徒が主体となって学習に関わることにつながっていきます。

また、自己肯定感は子どもの成長の基盤となります。まずは、教員や保護者、地域の大人が積極的に児童・生徒に関わりながら、少しでも自信を持てるようにしていけるよう適切に支援していくことが大切です。

<具体的な取組例>

- 学習前に児童・生徒の知識・理解の状況を把握する
- 単元の取組の中で児童・生徒が「何ができるようになるのか」ということを明確にする
- 分析を基に具体的な教育活動の改善につなげていく
- 家庭・地域との協働による教育活動の実施
- 一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、肯定的に捉える視点をもった指導をする
- 「いのちの授業」の充実

新規ポイント

- ▶ 全国学力・学習状況調査の自校の結果分析を学校全体で行い、教育活動の改善に活用している学校は増加傾向にあるものの、「よく行った」と回答した学校は、小学校で約 21%、中学校で約 17%と全国平均の 1 / 2 程度の状況です。
- ▶ 自校の調査結果を、調査対象学年・教科だけでなく全教職員で分析・検証する中で、自校の強みや課題、児童・生徒に今後求められる資質・能力等を明確化し、共有することは、児童・生徒を中心に据えたカリキュラム・マネジメントに欠かせません。

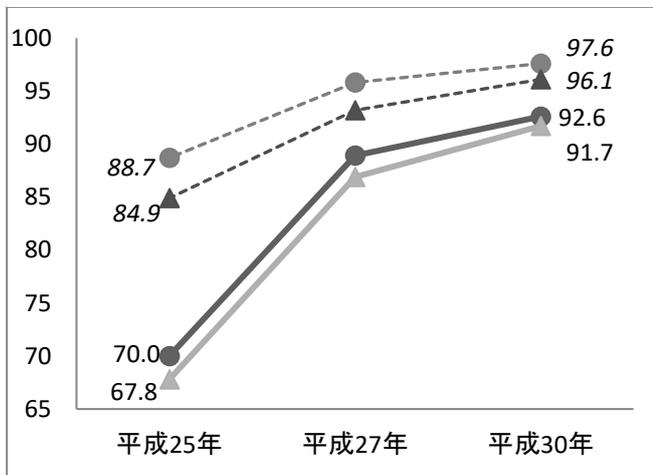
【参考】結果の活用に関する調査結果

凡例 ● 県(小) ▲ 県(中) ○ 国(小) ▲ 国(中)

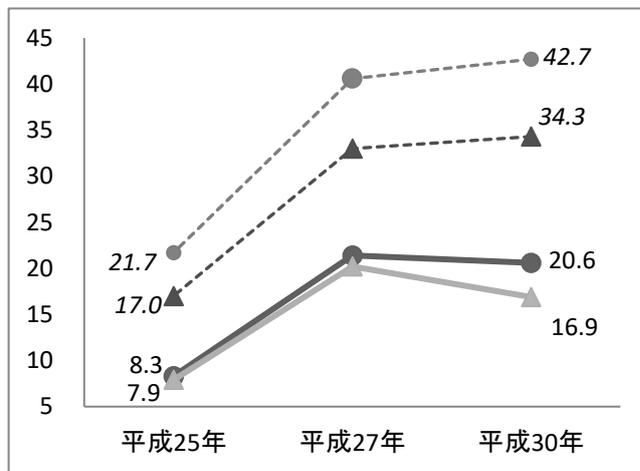
<学校質問紙>

31, 30 自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

肯定的な回答(「よく行った」, 「行った」)をした学校



「よく行った」と回答した学校



【参考】教育課程の改善と学校評価

各学校においては、校長の方針の下に、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努めるものとする。また、各学校が行う学校評価については、教育課程の編成、実施、改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえ、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意するものとする。(新小学校学習指導要領 総則より)

学校の取組例

各学校において、学校教育目標の実現に向け、自校の調査結果を全教職員で分析し、共有していくことが重要です。また、よりよい学校教育を創るために結果を保護者や地域の人たちに公表し、協働して教育活動をすすめていきましょう。

<具体的な取組例>

- 全国学力・学習状況調査の問題を解いてみる
- 自校採点による児童・生徒の知識・理解の状況の把握
- 全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校の教職員全員で共有する
- 解説資料、報告書、授業アイデア例の活用

コラム

県内市町村における全国学力・学習状況調査の効果的な活用事例

県内の市町村教育委員会及び学校では、全国学力・学習状況調査を分析し、教育活動の改善に活用する取組が行われています。

厚木市では、各学校において各種調査等を有効に活用し、児童・生徒の学力・学習状況を把握（Check）し、その分析（Action）に基づく計画立案（Plan）と実行（Do）というCAPDo サイクルで取組の工夫・改善を進めることにより、児童・生徒の学力向上を図る、「**厚木市学力向上プロジェクト**」が行われています。各学校は、「学力向上プロジェクトシート」に基づいて取組を進め、小学校は6年間、中学校は3年間（さらには、小・中9年間）の系統的・段階的な視点で現状の把握や課題の整理を行い、全校体制で各取組を進めることとしています。また、教育委員会は、各校の担当者等を対象にした研修会を6月及び11月に実施し、各学校の取組の一層の充実に向けた支援を行うことにより、プロジェクト全体の改善・充実に努めています。さらに、各校の校内研究に参加し、授業改善及びプロジェクトに関する指導・助言を行っています。

海老名市では、全国学力・学習状況調査の結果を家庭・地域へ広く周知することで、教育活動に対する理解を得ることを目的として、「**冊子、HP による市立小中学校全保護者への結果等公表**」が行われています。各小中学校の結果として、全校が同じ構成で公表するが、様式・内容については学校裁量としており、平均正答率は記載せず、文章で表記しています。分析とともに「これまでの取組から」「今後の具体的な取組について」を記載し、家庭との協力について記載しています。冊子で全家庭に配付するとともに、市のHPにて公表しています。

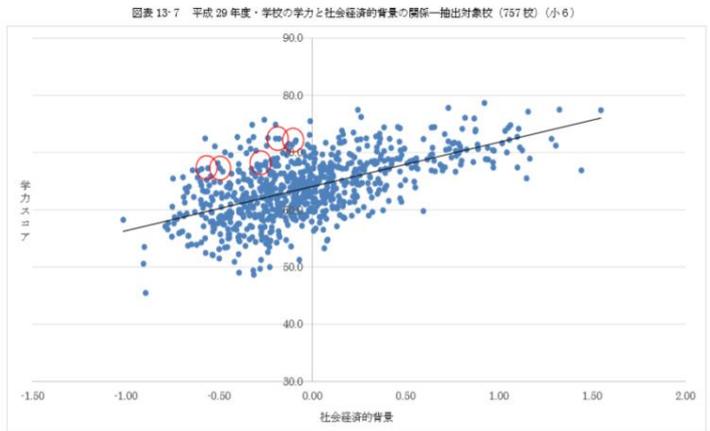
秦野市では、児童生徒の調査結果等の現状を分析し、学校における教育指導の充実や改善等に役立て、教育水準の改善向上につなげる取組として「**秦野市 全国学力・学習状況調査 結果分析・活用検討委員会**」が行われています。検討委員会では、調査結果を分析した報告書と、分析結果をもとにした補充的な課題解決のプリントを作成している。報告書は市のホームページで公開し、市民へ周知するとともに、市独自の4年次研修や8年次研修も含めて学校訪問や教科指導訪問などで報告書を活用して、教職員の授業力向上へつなげています。

調査結果活用の着眼点 効果のある学校の取組より

平成 29 年度保護者に対する調査の結果と学力等との関係の専門的な分析に関する調査研究

(お茶の水女子大学)

この調査研究によると、子どもの家庭背景に起因する学力の不平等が、統計的に予測される程度に比べて小さい、あるいは予測値よりも上回っている学校(効果のある学校)(右図)において、共通してみられる取組の一つに、各学校での全国学力・学習状況調査の結果の活用が挙げられています。(下図)



<平成29年度調査で特徴的に見られた点>

平成25年度調査で見られた取組は確実に実施されており、さらに手厚い取組として、以下が共通の特徴。

- 家庭学習習慣の定着と家庭への啓発、一人も見逃さない個別指導
(例:放課後や昼休みなどに個別に呼んで手厚くきめ細やかに指導。)
- 若手とベテランが学び合う同僚性と学校の組織的な取組
(例:面倒見の良いベテラン教師と学年を組む。初任者や若手教師の研修機会を生かして全校教師が学び合う。)
- 小中一貫教育による一貫した学習の構え
(例:小中で家庭学習の方法、学習ルールや授業スタイルを統一。話し合いや書く力、読書習慣・言語指導の重点を共有。)
- 言語活動や学習規律などを重視した授業改善の推進
(例:子供の名前を出しながら授業研究を行う。考えを伝え合うための支援や場の工夫。)
- 地域や保護者との良好な関係を基盤とした積極的な地域との連携
(例:地域の一員として、防災活動に取り組み、自治体でキャリア教育を推進。地域人材リストの作成。)
- 学力調査の分析・活用による児童生徒一人ひとりの学力形成**
(例:一人一人の子供の学習状況に着目。前年の学習定着の課題を教師で共有、授業改善に活用する。)

学力状況調査結果とその分析については、教育委員会の主導により、各学校で調査結果の分析や課題を明確にし、授業改善の重点項目としたり、学校だよりやホームページ等で公表して、地域や保護者に説明したりする等の取り組みも多く見られた。前回調査と同様、学校の平均点等の結果には振り回されず、課題を見出すことに活用しているが、それは、平成 25 年報告で挙げた、学校ごとの課題や弱点に応じて対策を講じることよりは、一人一人の子供の学習状況に着目したり、前年の学習定着の課題を教師で共有したり授業改善に生かしたりする姿勢が見られた。また、質問紙調査の結果についての注目はどこの学校でも高く、学校評価や課題改善に取り入れる様子が多く見られ、特に「楽しく学校に通っている」「先生たちはよく話を聞いてくれる」等の学校への満足度や、「自分にはいいところがある」といった自尊感情等について着目し数値目標を掲げている学校もあった。(後略～)

同研究 pp.131 第 14 章 高い成果を上げている学校 事例研究より 抜粋

調査結果の活用における着眼点

- 学校の平均正答率とともに、一人ひとりの児童・生徒の学習状況に着目する。
- 学習定着の課題を教職員全員で共有する。
- 児童・生徒質問紙や学校質問紙に着目し、学力を総合的に捉える。

V 平成30年度全国学力・学習状況調査 神奈川県公立小・中学校調査結果 (詳細)

1 平成30年度全国学力・学習状況調査の概要

資料3ページに記載のとおり。

2 本調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が国語、算数・数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

出典：平成30年度全国学力・学習状況調査 報告書（文部科学省 国立教育政策研究所）

3 「教科に関する調査」結果の見方

本調査の「教科に関する調査」結果で示されている本県の平均正答率については、次の2つの観点から踏まえ整理している。

* 平均正答率 80%以上…成果として認められる。

* 平均正答率 70%未満…課題として考えられる。

出典：全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ

(平成24年3月 文部科学省 国立教育政策研究所)

* 全国の平均正答率(公立)の±5%の範囲内であれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。

出典：平成30年度全国学力・学習状況調査 報告書（文部科学省 国立教育政策研究所）

4 教科に関する調査の結果

(1) 結果の概要

ア 平均正答数・平均正答率

平成30年度	小学校調査									
	国語				算数				理科	
	A (12問)		B (8問)		A (14問)		B (10問)		A B (16問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)								
全 国	8.5	70.7	4.4	54.7	8.9	63.5	5.1	51.5	9.6	60.3
神奈川県	8.4	70	4.3	54	8.9	64	5.2	52	9.5	60
全国との差	-0.1	-0.7	-0.1	-0.7	0	0.5	0.1	0.5	-0.1	-0.3
<参考>										
県 域	8.0	67	4.1	52	8.5	60	4.8	48	9.4	58
全国との差	-0.5	-3.7	-0.3	-2.7	-0.4	-3.5	-0.3	-3.5	-0.2	-2.3

平成30年度	中学校調査									
	国語				数学				理科	
	A (32問)		B (9問)		A (36問)		B (14問)		A B (27問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)								
全 国	24.3	76.1	5.5	61.2	23.8	66.1	6.6	46.9	17.9	66.1
神奈川県	24.2	76	5.6	62	23.6	66	6.7	48	17.7	66
全国との差	-0.1	-0.1	0.1	0.8	-0.2	-0.1	0.1	1.1	-0.2	-0.1
<参考>										
県 域	24.0	75	5.5	61	23.3	65	6.4	46	17.6	65
全国との差	-0.3	-1.1	0	-0.2	-0.5	-1.1	-0.2	-0.9	-0.3	-1.1

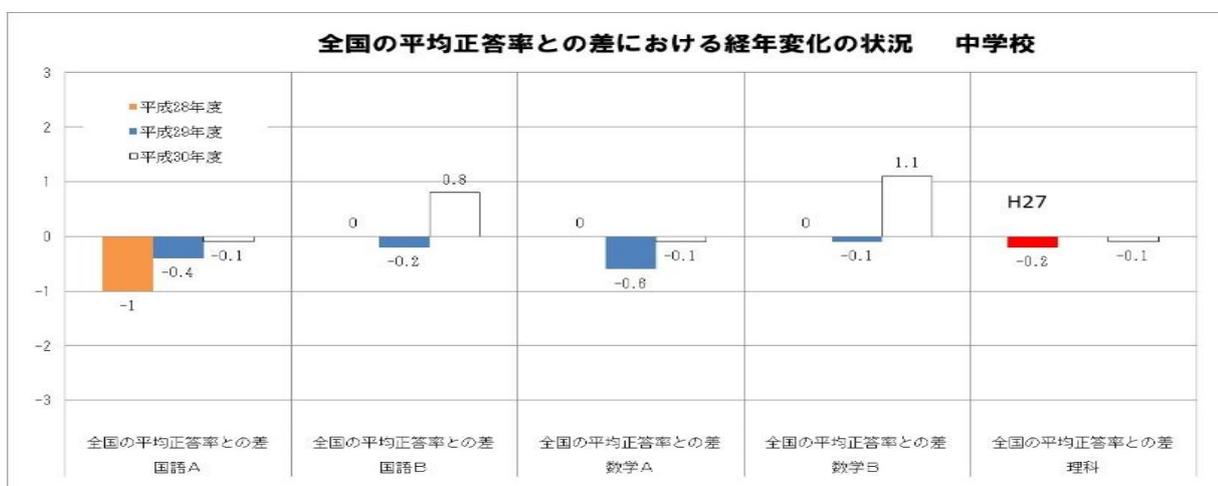
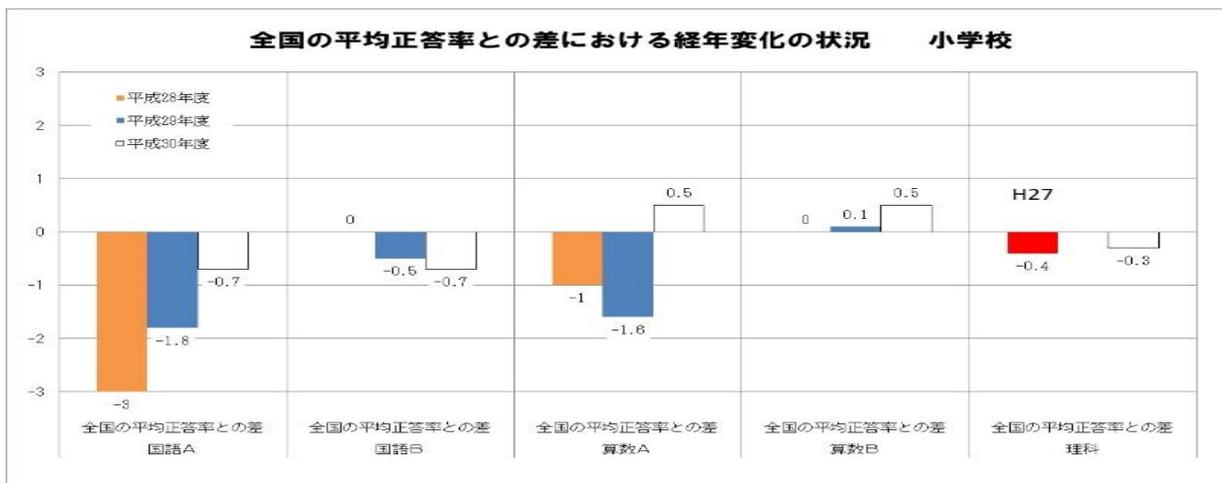
(文部科学省平成30年度全国学力・学習状況調査の結果をもとに子ども教育支援課が作成)

* 県域は政令指定都市（横浜市、川崎市、相模原市）を除いた地域。

* 今年度、県及び県域の平均正答率は、国から整数値で提供された。

・全教科において、全国公立学校の平均正答数・平均正答率と大きな差は見られなかった。

イ 平均正答率における経年変化の状況(直近3年間) (神奈川県)



* 平成27年度は国、県ともに小数值での比較。平成28年度は国、県ともに整数値での比較。平成29年度からは国：小数值、県：整数値による比較。

(文部科学省平成30年度全国学力・学習状況調査の結果をもとに子ども教育支援課が作成)

(2) 教科別の特徴

ア 小学校 国語

(ア) 平均正答率が高かった事項 (平均正答率 80%以上)

- ① 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す
○図書館への行き方の説明として適切なものを選択する設問
(神奈川県：91.0% 全国：90.8%)
- ② 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う
○慣用句の使い方として適切なものを選択する設問
・心を打たれる(神奈川県：90.1% 全国：90.4%)

(イ) 平均正答率が低かった事項 (平均正答率 70%未満)

- ① 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く
○多くの人に勧める理由として、二つの情報から適切な内容を取り上げて、読む人に伝わるように詳しく書く設問
(神奈川県：12.6% 全国：13.5%)
- ② 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる
○相手の話の内容を十分に聞き取り、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめる設問(神奈川県：32.9% 全国：33.8%)

(ウ) 全国公立学校の平均正答率より5ポイント以上低かった事項

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む
○湯川秀樹の伝記から、最も心をひかれた部分として「自分の力で、やれるところまでやってみよう。」という一文を選んだ理由を書くために、伝記を読み返して考えをまとめる設問 (神奈川県：47.1% 全国：52.3%)

(エ) 充実・改善の手立て

- ① 慣用句を用いて表現を充実させるためには、意味を理解したり使ったりするように指導することが有効です。(⇒報告書 p40~43)
 - ・国語辞典や慣用句辞典などにより意味や用例について正しく理解させること
 - ・スピーチや日記などの中で慣用句を用いる機会を設けること
 - ・児童が慣用句を用いた表現をした際に肯定的な評価をすること
- ② 多くの人に勧める理由を明確に伝えるためには、事例を挙げて具体的に説明するように指導することが有効です。(⇒報告書 p60~67、授業アイディア例 p5~6)
<事例を挙げて書く際に気を付けさせたいこと>
 - ・伝えたい事柄を明確にさせること
 - ・読む人に伝わる表現であるかどうかを判断させること
 - ・必要な資料を集め、得た情報を適切に関連付けて書かせること など

※ただし、「複数の資料から適切な内容を取り上げて、それらを関係付けて理解したり表現したりすること」にも課題が見られるため、低学年のときから、意図的・計画的に学習の中に取り入れていく必要がある。
- ③ 目的に応じて文章の内容を的確に押さえるためには、次の点を意識しながら読むように指導することが大切です。(⇒報告書 p68~75、授業アイディア例 p7~8)
 - ・何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのか、という目的を明確にした上で、全体の構成を把握しながら読むこと
 - ・必要な叙述を選び、他の部分に書かれている叙述と比べたり、自分の知識や経験、考えなどと関係付けたりしながら読むこと

イ 中学校 国語

(ア) 平均正答率が高かった事項 (平均正答率 80%以上)

- ① 文脈に即して漢字を正しく読むこと
 - 漢字を読む設問：技を磨く(神奈川県：97.8% 全国：98.1%)
 - 漢字を読む設問：池の水が凍る(神奈川県：97.5% 全国：97.8%)
- ② 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと
 - 適切な語句を選択する設問
姉はみんなと一緒に運動することが好きだ。一方、妹は一人で本を読むことが好きだ。(神奈川県：95.0% 全国：95.2%)

(イ) 平均正答率が低かった事項 (平均正答率 70%未満)

- ① 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと
 - 「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く設問(神奈川県：14.6% 全国：13.3%)
- ② 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文章を書くこと
 - 「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く設問(神奈川県：23.3% 全国：22.3%)

(ウ) 全国公立学校の平均正答率より5ポイント以上低かった事項

- ① 文脈に即して漢字を正しく書く(3問中1問)
 - 漢字を書く設問：舞台のマク(幕)が上がる(神奈川県：67.0% 全国：72.9%)
- ② 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む
 - 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く設問(とほさざるなし)
(神奈川県：57.6% 全国：63.0%)

(エ) 充実・改善の手立て

- ① 場面に即した語句を選択し、活用することができるようになるためには、次のような指導をすることが大切です。(⇒報告書 p55~58、授業アイデア例 p3~4)
 - ・ 気になった語句をノートに書き留め、その語句を使って短文を作ったり、話や文章の中で使ったりすること
 - ・ 文学的な文章の学習で、登場人物の人物像を四字熟語や慣用句を用いて表すこと
 - ② 目的に応じて文章の内容を的確に読み取るためには、次のことを指導することが大切です。(⇒報告書 p69~72、授業アイデア例 p5~6)
 - ・ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などとを読み分けること
 - ・ 文章の構成や展開を捉えて内容を理解することまた、その際、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、さらに大きなまとまりごとに、文章全体における役割を捉えるように指導することが大切です。
 - ③ 文を書く際には、次のことについて指導することが大切です。(⇒報告書 p59~61)
 - ・ 主語と述語の照応や文の成分の順序などを整えること
 - ・ 伝えたいことが相手に適切に伝わるように書くことができているかを常に吟味すること
- 〈例〉
「心の動きや、身の回りの様々な物事になどについて、具体的な内容を盛り込んだ文を書き、伝えたいことを適切に表現するための語順、語の照応について検討する」などの学習活動が考えられる

ウ 小学校 算数

(ア) 平均正答率が高かった事項 (平均正答率 80%以上)

- ① 180° の角の大きさを理解している
○ 角の大きさが何度であるかを選ぶ設問(神奈川県 : 93.2% 全国 : 94.4%)
- ② 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している
○ 同じ面積の二つのシートにそれぞれ何人いるかといった混み具合について、正しいものを選ぶ設問(神奈川県 : 88.2% 全国 : 87.8%)

(イ) 平均正答率が低かった事項 (平均正答率 70%未満)

- ① メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる
○ 2つのメモが、それぞれ、グラフのどのようなことに着目して書かれているのかを説明する設問(神奈川県 : 21.2% 全国 : 20.7%)
- ② 棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる
○ 一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章中の空欄に当てはまる言葉を選ぶ設問(神奈川県 : 25.9% 全国 : 23.9%)

(ウ) 全国公立学校の平均正答率より 5 ポイント以上低かった事項

該当なし

(エ) 充実・改善の手立て

- ① 混み具合については、面積がそろっていれば、人数の大小で混み具合を比べることができることなどを、実感的に理解できるように指導することが大切です。
(⇒報告書 p37~38)
- ② 複数の観点からグラフの特徴を捉えて、情報を読み取ることができるようにするために、他者が読み取った自分とは異なる観点を理解できるように指導することが大切です。
(⇒報告書 p77~78、授業アイディア例 p11~12)
- ③ あるグラフから読み取った情報が適切かどうかを検討したり、考察した結果から見出した新たな問題を解決したりするために、グラフを新たに作り、二つのグラフを関連付けながら考察することができるように指導することが大切です。(⇒報告書 p79~80)

エ 中学校 数学

(ア) 平均正答率が高かった事項 (平均正答率 80%以上)

- ① 数直線上に示された負の整数を読み取ることができる
○ 数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る設問(神奈川県 : 93.9% 全国 : 94.6%)
- ② 単項式どうしの除法の計算ができる
○ $6a^2b \div 3a$ を計算する設問(神奈川県 : 91.8% 全国 : 91.0%)

(イ) 平均正答率が低かった事項 (平均正答率 70%未満)

- ① 他者が行った計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる
○ 団体料金 (10人分) が通常料金の何人分にあたるかを求める計算に対する適切な解釈を選び、その理由を説明する設問(神奈川県 : 10.8% 全国 : 10.4%)
- ② 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

- 駅からの道のりが6 kmの地点において列車が通ってから次の列車が通るまでの時間を、グラフから求める方法を説明する設問（神奈川県：13.5% 全国：13.2%）

(ウ) 全国公立学校の平均正答率より5ポイント以上低かった事項

- ① 絶対値の意味を理解していること

- 絶対値が6である数を書く設問（神奈川県：62.5% 全国：69.0%）

(エ) 充実・改善の手立て

- ① 単項式どうしの除法では、分数で表した後、文字も数と同様に約分できることを確認する場面を設定するなどして、計算のきまりを理解し確実に計算できるように指導することが大切です。（⇒報告書 p33）
- ② 日常的な事象について、表、式、グラフなどから得られた結果を数学的に解釈することができるように指導することが大切です。また、ある事柄が成り立つことを説明する際には、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、数学的な表現を用いて簡潔に分かりやすく説明することができるように指導することが大切です。（⇒報告書 p131～134）
- ③ 問題解決の方法を、数学的な表現を用いて説明できるように指導することが大切です。その際、表、式、グラフ等の何をどのように用いればよいかといった「用いるもの」と「用い方」について説明する場面を設定することが有効です。（⇒報告書 p117～120）
- ④ 数直線上における原点からの距離が絶対値であることを理解できるように指導することが大切です。さらに、学習した内容を復習する場面を、適切に設定することが必要です。（⇒報告書 p28）

オ 小学校 理科

(ア) 平均正答率が高かった事項（平均正答率80%以上）

- ① より妥当な考えをつくり出すために、2つの異なる方法の実験結果を分析できる

- 海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ設問（神奈川県：89.7% 全国：89.4%）

- ② 安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる

- 野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ設問

（神奈川県：82.8% 全国：82.1%）

(イ) 平均正答率が低かった事項（平均正答率70%未満）

- ① より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる

- 流す水の量と、みぞの曲がり角に立てた棒のたおれ方の関係を分析し、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く設問

（神奈川県：21.3% 全国：20.1%）

- ② 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる

- 食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く設問

（神奈川県：34.0% 全国：35.9%）

(ウ) 全国公立学校の平均正答率より5ポイント以上低かった事項

- ① 腕を曲げたりすることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書くこと

- 腕を曲げたりすることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く設問

（神奈川県：72.5% 全国：79.4%）

(エ) 充実・改善の手立て

- ① 複数の実験結果を多面的に分析し、それを根拠にして、より妥当な考えを作り出すことができるようにすることが大切です。(⇒報告書 p56～57)
- ② 図や模型などを用いて、つくりを比較したり、しくみを考えたりすることを通して、科学的な言葉に置き換えて説明できるよう指導することが大切です。(⇒授業アイディア例 p21～22)
- ③ 自らの予想や仮説を基に実験計画を立案し、実験から得られる結果の見通しをもつ時間を十分にとることが大切です。また、自分と異なる他者の予想を基に結果を見通すことが大切です。(⇒報告書 p32～34、授業アイディア例 p15～16)
- ④ 複数の情報を収集して児童同士が共有し、それらを関連付けて話し合う学習活動を促すことが大切です。また、土地の様子の変化を、時間的・空間的な広がりをつまえて分析し考察することが大切です。(⇒授業アイディア例 p15～16)
- ⑤ 実験結果を基に分析し、問題に正対したまとめができるようにするためには、「問題は何か」を確認し、実験で得られた結果を根拠とした考察を行い、その考察が実験結果から言えることだけに言及した内容かどうかについて検討する学習を取り入れることが大切です。(⇒報告書 p61～63)

カ 中学校 理科

(ア) 平均正答率が高かった事項 (平均正答率 80%以上)

- ① 地震における初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用できる
 - 緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる設問 (神奈川県 : 94.1% 全国 : 94.4%)
- ② 豆電球と豆電球型の LED の点灯の様子と電力との関係を指摘できる
 - 自転車のライトの豆電球型の LED が豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる設問 (神奈川県 : 91.0% 全国 : 91.4%)

(イ) 平均正答率が低かった事項 (平均正答率 70%未満)

- ① 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる
 - 部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる設問 (神奈川県 : 22.4% 全国 : 19.4%)
- ② 風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる
 - コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる設問 (神奈川県 : 38.0% 全国 : 37.5%)

(ウ) 全国公立学校の平均正答率より 5 ポイント以上低かった事項

- ① 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘すること
 - 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘する設問 (神奈川県 : 41.8% 全国 : 46.9%)
- ② 神経系の働きについての知識を身に付けていること
 - 神経系の働きについての知識を身に付けているかどうかをみる設問 (神奈川県 : 48.0% 全国 : 57.2%)

(エ) 充実・改善の手立て

- ① 自然事象についての理解を深めるうえで、これまで習得した科学的な概念、原理や法則を、分野や領域を超えて様々な現象に当てはめて考察することは大切な視点です。(⇒報告書 p71~72)
- ② 水溶液の濃度を量的に扱うことは、水溶液における粒子の基本的な見方や概念を形成する上で大切です。特定の質量パーセント濃度の水溶液における溶質と水の質量を求めることができるようにするには、日常生活と関連させ、目的に応じた濃度の水溶液をつくる場面を設定することが有効です。(⇒報告書 p32~33)
- ③ 習得した知識・技能の活用だけでは、探究が進まない場面では、書物などから先哲の考えを示して考えさせていくことも大切です。そして、その考えを手掛かりに課題を設定し、実験を計画する学習へつなぎます。また、実験を計画する際は、「変える条件」と「変えない条件」を整理して計画することが大切です。(⇒授業アイディア例 p17~18)
- ④ 実験を計画できるようにするには、「原因として考えられる要因」を見落としていないか、条件制御の観点からグループで話し合い、個人の考えを検討・改善することが有効です。その際、見落としている要因や条件制御について、グループで指摘し合えるよう、教師が助言や問い返しをすることが大切です。(⇒報告書 p43~45)
- ⑤ 探究の過程から、新たな問題を見だし、さらに探究を深めるためには、探究の過程を振り返って新たな疑問をノートに書き留めておくことが有効です。(⇒報告書 p78~79)
- ⑥ 探究の過程を通して、主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善を行うことに加え、科学的な概念としての定着をはかる指導の工夫や、まとめやレポート等の学習活動により、単元の振り返りをしていきましょう。(⇒報告書 p80~82)

5 質問紙調査の結果

(1) 児童・生徒質問紙調査の結果(肯定的な回答をした児童・生徒の割合で比較)

ア 全国公立学校の平均を上回った主な事項(全県)

- ① 算数(数学)の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える [32, 32]
【小学校】神奈川県 66.5% 全国 64.4% (+2.1)
【中学校】神奈川県 39.6% 全国 38.7% (+0.9)
- ② 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う [44, 44]
【小学校】神奈川県 27.9% 全国 26.1% (+1.8)
【中学校】神奈川県 23.0% 全国 22.2% (+0.8)
- ③ テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る [26, 26]
【小学校】神奈川県 87.5% 全国 86.2% (+1.3)
参考【中学校】神奈川県 86.5% 全国 86.6% (-0.1)
- ④ 数学(算数)の授業の内容はよく分かる [29, 29]
参考【小学校】神奈川県 82.8% 全国 83.4% (-0.6)
【中学校】神奈川県 75.3% 全国 71.0% (+4.3)

- ⑤ 数学（算数）の勉強は好きだ [27, 27]
 【小学校】神奈川県 64.3% 全国 64.0% (+0.3)
 【中学校】神奈川県 56.9% 全国 53.9% (+3.0)
- ⑥ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強する [14, 14]
 参考【小学校】神奈川県 61.5% 全国 66.2% (-4.7)
 【中学校】神奈川県 73.6% 全国 70.6% (+3.0)

イ 全国公立学校の平均を下回った主な事項（全県）

- ① 家で、学校の授業の予習・復習をしている [12, 12]
 【小学校】神奈川県 55.2% 全国 62.6% (-7.4)
 【中学校】神奈川県 52.1% 全国 55.2% (-3.1)
- ② 家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において教科書を使いながら学習している [13, 13]
 【小学校】神奈川県 62.9% 全国 69.9% (-7.0)
 【中学校】神奈川県 69.4% 全国 71.3% (-1.9)
- ③ 今住んでいる地域の行事に参加している [20, 20]
 【小学校】神奈川県 57.0% 全国 62.7% (-5.7)
 【中学校】神奈川県 39.2% 全国 45.6% (-6.4)
- ④ 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある [23, 23]
 【小学校】神奈川県 59.5% 全国 62.6% (-3.1)
 【中学校】神奈川県 47.1% 全国 51.8% (-4.7)
- ⑤ 理科の勉強は大切だと思う [39, 39]
 【小学校】神奈川県 82.9% 全国 85.4% (-2.5)
 【中学校】神奈川県 66.1% 全国 70.6% (-4.5)

(2) 学校質問紙調査（小学校及び中学校）の結果（肯定的な回答をした学校の割合で比較）

ア 全国公立学校の平均を上回った主な事項（全県）

- ① 調査対象学年の児童（生徒）に対する理科の授業やその準備において、前年度に、観察実験補助員が配置されていた [50, 48]
 【小学校】神奈川県 50.9% 全国 14.7% (+36.2)
 参考【中学校】神奈川県 1.4% 全国 4.4% (-3.0)
- ② 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート（補助）を行った [54, 52]
 【小学校】神奈川県 61.2% 全国 49.2% (+12.0)
 【中学校】神奈川県 43.8% 全国 33.0% (+10.8)
- ③ 前年度までに、近隣等の中（小）学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った [77, 74]
 【小学校】神奈川県 78.8% 全国 69.5% (+9.3)
 【中学校】神奈川県 82.4% 全国 76.5% (+5.9)

- ④ 調査対象学年の生徒（児童）に対する理科の指導に関して、前年度までに、観察や実験のレポートの作成方法（観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法）に関する指導を行った [49, 47]

【小学校】神奈川県 95.6% 全国 94.4% (+1.2)

【中学校】神奈川県 91.5% 全国 81.2% (+10.3)

- ⑤ 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行った [20, 19]

参考【小学校】神奈川県 86.1% 全国 90.6% (-4.5)

【中学校】神奈川県 91.5% 全国 85.2% (+6.3)

イ 全国公立学校の平均を下回った主な事項（全県）

- ① 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた [69, 66]

【小学校】神奈川県 25.9% 全国 45.7% (-19.8)

【中学校】神奈川県 62.8% 全国 76.6% (-13.8)

- ② 調査対象学年の児童に対して、算数（数学）の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った [36, 35]

【小学校】神奈川県 35.1% 全国 54.7% (-19.6)

【中学校】神奈川県 25.7% 全国 45.0% (-19.3)

- ③ 調査対象学年の児童に対して、算数（数学）の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした [35, 34]

【小学校】神奈川県 44.8% 全国 62.0% (-17.2)

【中学校】神奈川県 29.7% 全国 50.5% (-20.8)

- ④ 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った。（国語／数学（算数）共通） [64, 61]

【小学校】神奈川県 85.4% 全国 91.6% (-6.2)

【中学校】神奈川県 71.4% 全国 87.1% (-15.7)

VI 学びの充実・改善に向けて参考となる情報

神奈川県教育委員会の主な取組等 参考URL

神奈川県教育委員会では、学びの充実・改善に向けて次のような取組を進めています。各学校での取組の参考としてください。

■学びづくり推進地域研究委託事業（H20～）

市町村において、学習指導の成果や課題を明確にし、学力向上や学習意欲の向上、学習に関する学校や家庭、地域の役割や連携について研究する。

<必携 かながわの学びづくり>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cent/f534702/>

<かながわ学びづくり推進地域の取組について>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cent/f534289/>

<「確かな学力を育てるために」学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cent/f417749/>

<学習評価関連資料>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cent/f6679/>

<小学校・中学校「関心・意欲・態度」を育てるための学習評価を踏まえた授業づくり 実践事例集>

http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h27/pdf/27002_学習評価.pdf

<学習評価を踏まえた授業づくりのために>

http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h26/pdf/26001_学習評価.pdf

■かながわ学力向上シンポジウム（H19～）

学校、家庭、地域の教育力の向上に資するテーマを設定し、幅広い参加者を募り意見交換等を行うことで、学校教育への理解を図る。

<かながわの学びづくりプラン>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cent/f300518/>

■小中一貫教育推進事業（H27～）

少子化に伴う学校の再編統合を検討している市町村への支援を含め、県全体として質の高い教育を維持向上させていくための方策として、小中一貫教育校の推進に取り組む。

<小中一貫教育の推進について>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cent/f533778/>

<学校運営の重点、学校教育指導の重点及び各教科等の指導の重点>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cent/f6685/>

■コミュニティ・スクール（H22～）

学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みにより、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを推進する。

■子ども一人ひとりの学びづくり支援システム開発事業（H29～）

全国学力・学習状況調査の結果から、特に小学校において、学習内容の基礎的・基本的な知識や技能の定着、また、家での復習や自学自習において課題があることが明らかとなった。そこで、小学校において、一人ひとりの児童の自学自習の習慣作り及び基礎的・基本的な知識や技能の定着に向けたPDCAサイクルの確立を目指す。

■課題解決教材（H24～H29）

児童・生徒の一人ひとりの学習課題の解決に役立てるため、神奈川県公立小・中学校学習状況調査実施後に見えてきた学習課題を解決するための練習問題やワークシートなどの教材を作成し、ホームページに掲載することで、事後指導の取組の改善を図る。

〈Let' s challenge!課題解決教材〉

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f417579/>

■全国学力・学習状況調査の結果について

県教育委員会が分析し公表した本県の調査結果をホームページに掲載した。また、各市町村がホームページに公表した調査結果へのリンクを表示した。

〈全国学力・学習状況調査の結果について〉

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f531252/>

■国立教育政策研究所「授業アイデア例」の活用（H21～H30）

国立教育政策研究所は、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すものとして「授業アイデア例」を作成し、学校や教育委員会などに配布するとともに、ホームページに掲載している。

〈国立教育政策研究所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」〉

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

■自己肯定感を高めるための支援プログラム（H30～）

全ての子ども・若者の未来を信じて、そして、神奈川で生まれ、育った子ども・若者たちが、自己肯定感をもってほしいという願いのもと、「見つける→気づく→関わる」というプロセスからなるプログラムを作成した。

〈自己肯定感を高めるための支援プログラム〉

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f536823/>

■かながわ元気な学校ネットワークの推進（H23～）

産・官・学・民からの委員で構成する「かながわ元気な学校ネットワーク推進会議」（H23.8 設置）を推進母体に、すべての子どもたちを元気にし、教職員・保護者も、さらに地域の人たちも元気にするような学校づくりを推進する。

〈かながわ元気な学校づくり通信「はにい」〉

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f420082/>

〈かながわ「いのちの授業」〉

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f417796/>

■「教室に行こう」（H26～）

神奈川県における学校の様子を広く県民に広報し、学校の教育活動の理解を得ることを目的として、神奈川新聞教育面「教室に行こう」を掲載する。同時に、神奈川新聞のホームページ「カナロコ」にも掲載される。

県内の幼・小・中・高・特別支援学校において、教職員や子ども達が生き生きと学んでいる授業の様子を県教育委員会の指導主事が取材し、広報する。

<http://www.kanaloco.jp/special/serial/schoolroom/>

■学級経営支援事業（H27～）

小学校における学級経営の充実に向け、経験豊かな退職教員を非常勤講師として派遣し、課題を抱える児童や学級に対し、継続的指導・支援を行い、問題行動等の未然防止を図るとともに、その成果について周知する。

＜子どもが輝く学級経営につながる学級担任の指導のポイント＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f535066/>

■その他関連資料

＜インクルーシブな学校づくり Ver. 1.0＞

<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h27/pdf/インクルーシブリーフレット.pdf>

＜支援を必要とする児童・生徒の教育のために（平成30年3月版）＞

http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/Snavi/soudanSnavi/tameni_h30_3.html

＜外国につながるのがある児童・生徒への指導・支援の手引き＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420361/>

＜手話啓発リーフレット「手話を楽しく学ぼう」＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f535303/>

＜いじめ問題への対応について＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f470374/>

＜いじめを絶対に許さない—緊急アピール—＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420446/>

＜神奈川県児童・生徒の問題行動等調査の結果について＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7508/>

＜子どもの安全を守る6つの点検＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f532524/>

＜いじめのない学校づくりのために～小学校・中学校・高等学校・特別支援学校
校種を越えたメッセージ～＞

<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/Snavi/kadaiSnavi/pdf/いじめのない学校づくりのために.pdf>

＜資料「わたくしたちの生活と進路」について＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6687/>

＜指導資料「小・中学校における政治的教養を育む教育」＞

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f537244/>

＜県立総合教育センターの刊行物一覧＞

<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/index.html>